

— 臨床 —

新潟大学医歯学総合病院歯科麻酔科診療室における平成23年の外来患者の 臨床統計的観察

山崎麻衣子¹⁾, 照光 真²⁾, 田中 裕¹⁾, 弦巻 立²⁾, 倉田行伸²⁾, 金丸博子¹⁾, 吉川博之¹⁾,
小玉由記¹⁾, 瀬尾憲司²⁾

¹⁾ 新潟大学医歯学総合病院歯科麻酔科診療室 (指導者: 瀬尾憲司教授)

²⁾ 新潟大学大学院医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻 顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野 (指導者: 瀬尾憲司教授)

Retrospective statistical analysis on the amount of outward patients at the Dental Anesthesia Clinic, Niigata University Medical and Dental Hospital in 2011

Maiko Yamazaki¹⁾, Makoto Terumitsu²⁾, Yutaka Tanaka¹⁾, Tatsuru Tsurumaki²⁾,
Shigenobu Kurata²⁾, Hiroko Kanemaru¹⁾, Hiroyuki Yoshikawa¹⁾, Yuki Kodama¹⁾, Kenji Seo²⁾

¹⁾ Department of Dental Anesthesiology, Niigata University Medical and Dental Hospital (Chief: Prof. Kenji Seo)

²⁾ Department of Tissue Regeneration and Reconstruction, Division of Dental Anesthesiology, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences,
Course for Oral Life Science (Chief: Prof. Kenji Seo)

平成24年10月3日受付 平成24年10月23日受理

Abstract

[Background] Over 20 years have passed since the division of dental anesthesia at Niigata University Medical and Dental Hospital was established in 1990. Because dental and medical sciences have progressed during this period, we need to determine the current outward patients' features and our treatment of these patients.

[Methods] A retrospective analysis was performed concerning the number and chief complaints of newly admitted outward patients to our clinic in 2011, and the actual medical services performed at this clinic. This information was obtained by referring to the registration records of the clinic and the medical records of the hospital's medical affairs division. These data were compared with the data of 1990 when the clinic was established.

[Results] The number of newly admitted patients was 247, which was approximately two times that of 1991. In contrast, the number of times that medical services were performed in 2011 was 2617, and this was almost five times that of 1991. The number of patients who required anesthesia management by inhalation and/or intravenous sedation for dental treatment was 138, and 87 patients needed pain control.

[Conclusions] Currently, aging of patients and an increasing tendency in the prevalence of morbidity reflect the increase in the number of the patients who cannot receive regular dental treatment. Moreover, complications of medical treatment are related to an increase in difficulties of nerve injury, which cannot be treated in the dental office. Our clinic was required to treat these patients, and this might be the most important role of dental care medicine in Japan.

Key Words : Niigata University, Dental anesthesiology, Outward patient, retrospective analysis

抄録

(目的) 新潟大学医歯学総合病院歯科麻酔科診療室における平成2年度と平成23年の患者内訳と診療詳細を比較・分析し、今後の当科の診療のあり方について検討を行った。

(方法) 平成23年1月から12月末までに新潟大学医歯学総合病院歯科麻酔科診療室を初診した患者の患者数や主訴などについて歯科麻酔科診療室の患者台帳と診療記録をもとに調査し、さらに平成2年から現在までの患者数に関し

ては医事課作成の外来患者数の資料をもとに調査し、検討を行った。

(結果) 平成 23 年の新患数は 247 人 (平成 2 年の約 2 倍) であり、のべ診療数は 2617 回 (5.4 倍) にまで増加した。この中で歯科治療の全身管理を依頼して受診した患者は 138 名と最も多く全体の 54% を、次いで痛み疾患と知覚障害を訴えて来院した患者は 87 名であり 35% を占めていた。

(結論) 精神鎮静法を希望する患者および、他院では診断されなかったまたは治療されない不定愁訴を含む神経障害などを訴えて受診する患者が増加していた。高齢化社会と有病者の増加傾向を背景に、これらの充実化が当診療科へ求められていることであると考えられる。

キーワード: 新潟大学, 歯科麻酔科診療室, 外来患者, 統計

【緒 言】

歯科麻酔科診療室は、平成 2 年 4 月に設置され診療を開始した。平成 12 年に診療業務の効率化のため歯科麻酔科の外来には「口のいたみの外来」「口のいたみとからだの外来」「局所麻酔アレルギー診断外来」「有病者歯科治療外来」を設置した。平成 15 年には組織改革により旧医学部附属病院と歯学部附属病院が統合化されて医歯学総合病院となり、一部門として診療を継続している。

診療内容としては、開設当初は手術室における全身管理 (全身麻酔、鎮静法) の術前診察および疼痛や知覚異常の治療は少なく、歯科治療における精神鎮静法やバイタルサインのモニタリングが主たる診療であった¹⁾。その後、患者の主訴の多様化のため、一般歯科治療が困難である患者の歯科治療補助から神経疾患・神経損傷、さらには不定愁訴への対応も必要となり適宜対応してきたが、その診療内容の変化については明確ではない。

そこで歯科麻酔科診療室開設より 20 年が経過したことにより、最近の外来患者の動向を検討し、開設時の状況との比較により今後の当科のあり方を検討した。

【方 法】

平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 12 月 31 日の間に当診療室を初診した患者を対象とした。患者の詳細および診療内容の調査は、歯科麻酔科外来診療録および患者台帳より行った。平成 2 年から現在までの診療のべ数に関しては新潟大学医歯学総合病院医事課作成の診療科別外来患者数の資料を用いた。調査項目としては患者の年齢・性別・住所・紹介元・受診理由について行った。また痛みおよび知覚障害を訴えてきた患者に関しては、その内訳について検討した。明らかな神経損傷が認められていたものを三叉神経障害とし、単なる知覚異常とは区別して分類した。なお日本ペインクリニック学会のガイドライン²⁾に沿って、顔面の痛みを主訴としていたが明らかな原因が認められないもの、または神経障害や炎症顎関節症、帯状疱疹後神経痛などに分類できないものをすべ

て非定型顔面痛と分類した。

平成 2 年度との比較のためには高山らによる「歯科麻酔科における外来症例の検討¹⁾」を参考にした。

【結 果】

1. 新患数および男女比、年齢構成について

平成 23 年の新患数は計 247 名で男性 115 名、女性 132 名と女性が多かった。年齢構成分布をみると 60 歳代が最も多く 46 名 (19%)、次いで 50 歳代 (42 名: 17%)、30 歳代 (36 名: 15%)、40 歳代 (27 名: 11%) と続いた。最年少は 3 歳、最高齢は 87 歳であった。また患者は新潟市内から受診した患者が 172 名 (70%) であったが、県外からの患者も 8 名 (3%) あった。

新患患者の総数を平成 2 年からの推移でみると、開設当初は年間約 100 人で平成 12 年まで大きな変化はなかったが、平成 12 年には年間 250 人程度となり、その後は大きな変化がなかった (図 1)。また、平成 23 年ののべ診療数は 2617 回であり、平成 2 年より平成 23 年までの推移は、平成 12 年に急増が認められたが、その後は大きな増減はなかった (図 1)。

2. 受診理由に関して

当科を受診した患者は院内他科から紹介された患者が

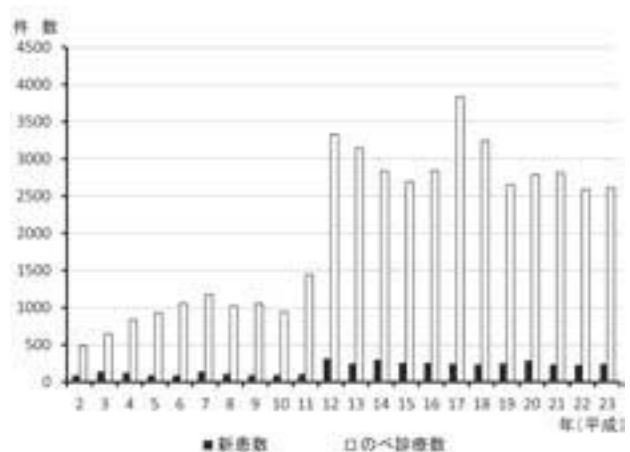


図 1 年別新患数とのべ診療数の変化